

日壇洪国交樹立150周年記念コンサート&レクチャー

2019.11.16 SAT 13:30 DOOR OPEN 14:00 START

明治神宮 参集殿

Program

第一部 1st Section

L. シュポーア / 幻想曲

Louis Spohr / Fantaisie

ソフィー・シュタイナー (ハープ) *Sophie STEINER (Harp)*

F. リスト / ハンガリー狂詩曲第15番

Liszt Ferenc / Hungarian Rhapsody No. 15

ボガーニ・ゲルゲイ (ピアノ) *BOGÁNYI Gergely (Piano)*

講演 Lecture

日本とオーストリア=ハンガリー帝国、半世紀の歩み

(1869-1918) : 両国の政治・経済的関係

島田 昌幸 *Masayuki SHIMADA*

～ 休憩 ～

第二部 2nd Section

F. リスト / 三つの演奏会用練習曲より 第三番「ため息」、
二つの演奏会用練習曲より 第二番「小人の踊り」

Liszt Ferenc / Un sospiro & Gnomenreigen

ボガーニ・ゲルゲイ (ピアノ) *BOGÁNYI Gergely (Piano)*

G. フォーレ / 即興曲

Gabriel Fauré / Impromptu

ソフィー・シュタイナー (ハープ) *Sophie STEINER (Harp)*

第三部 3rd Section

F. リスト / ハンガリー狂詩曲第2番

Liszt Ferenc / Hungarian Rhapsody No. 2

ボガーニ・ゲルゲイ (ピアノ) *BOGÁNYI Gergely (Piano)*

黛 敏郎 / ROKUDAN

Toshiro Mayuzumi / Rokudan

ソフィー・シュタイナー (ハープ) *Sophie STEINER (Harp)*

※ハンガリー人の人名のみ「姓・名」の順に表記しています。

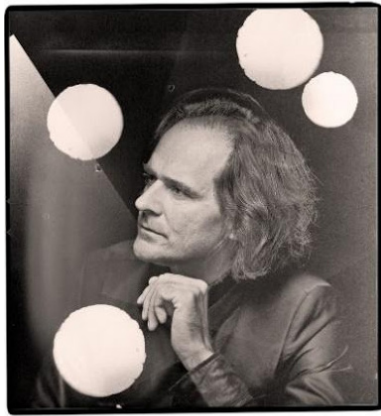
ソフィー・シュタイナー (Sophie STEINER)

1995年11月4日にウィーン生まれ。4歳から音楽教育を、5歳からクリスティーネ・ライブブランドキューゲル氏の元でハープを始め、様々な国内外のコンクールで優勝。14歳で初めてのオーケストラのオーディションに合格し、若い時からオーケストラでの経験。その他に、古楽を専門とするアンサンブル、トロバル・エ・カンタルのメンバー。CD「DE:FINE AMOUR」が国際クラシック音楽賞 (ICMA) 2019にノミネートされる。新しいコンサート概念の発展に尽くしメースフィールド奨学金を受ける。



2019年、慣習的、文化的、社会的、芸術的、そして音楽的な境界線を越えることをコンセプトとしたプロジェクトシリーズ「Breaking Borders」を立ち上げる。2017年よりドイツCusanus Werk 奨学金を受ける。2018年、権威あるグザビエ・ドゥ・メストレ氏のクラスを優等の成績で終える。現在、自身の音楽のための新しいインスピレーションやアイデアを見つけるため、日本で木村茉莉と共に学ぶ。

ボガーニ・ゲルゲイ (BOGÁNYI Gergely) ※姓名の順



1974年ハンガリー・ヴァーツ市生まれ。4歳から生まれ育ったヴァーツ市でピアノを始め、ブダペストのリスト音楽院、ヘルシンキのシベリウス音楽院、インディアナ大学のブルーミントン校で学ぶ。数々のハンガリー国内外のコンクールで優勝し、1996年にブダペストのリスト国際ピアノコンクールで第一位になる。

30曲を超えるピアノ協奏曲とショパンのピアノ独奏曲全曲を含む幅広いレパートリーを持つ。2002年には、リストの「超絶技巧練習曲」12曲とショパンのピアノ独奏曲全曲をハンガリーとフィンランドで演奏し、ハンガリーでベストコンサートシリーズに贈られる「グラモフォン賞」を受賞。これまでに7枚のCDが発売されている。

2000年に、ハンガリーで音楽家に贈られる最高の権威である「リスト賞」、2004年には芸術家に贈られる最高の権威で日本の文化勲章にあたる、「コシュート賞」を受賞。

島田昌幸 (しまだ・まさゆき)

学習院高等科教諭 (政治経済)。慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻後期博士課程単位取得退学。専攻: ヨーロッパ国際政治史、オーストリア=ハンガリー外交史、日墺洪関係史。

本日の講演内容: 「日本とオーストリア=ハンガリー帝国、半世紀の歩み (1869-1918): 両国の政治・経済的関係」と称して日本とオーストリア=ハンガリー帝国の間の外交的、通商的、軍事的な関係の講演をおこなう。

詳細: 日本とハンガリーやオーストリアとの関係について語るとき、芸術関連の話題が中心になるのは仕方ないことかもしれません。しかし、ここでは普段はあまり意識することがない1869~1918年にかけてのオーストリア=ハンガリーと日本との関係を外交・軍事、経済の面から概観してみようと思います。そしてウィーン駐在海軍武官の松岡静雄 (民族学者柳田国男の弟) のウィーン駐在日記を紐解きながら、当時オーストリア=ハンガリーに駐在していた日本人の目に映った同国の様子をご紹介したいと思います。